

第4回 嚮陽会館複合交流施設整備検討委員会議事録

日時：令和6年1月23日（火） 14時00分～15時15分

場所：市役所4階会議室

出席者：嚮陽会館複合交流施設整備検討委員会 14名中12名

鯖江市：総務部長、政策経営部長、健康福祉部長、市民活躍課長、行政管理課長、子育て支援課長
総合政策課長

議事1 嚮陽会館複合交流施設整備の方針とイメージ案について（資料No.1）

1) 基本方針、コンセプトについて

委員長) ご質問、ご意見をお願いします。この部分は前回皆さんからご意見をいただいたものを反映したものである。

委員) 道の駅の物産販売は地元産のものや、ものづくりに関連したものだと思う。これを広げていくような話になっているが、道の駅との関係性はどうしていくのか。

3ページの時間軸を意識した施設利用の促進部分、日中は子ども利用への対応、夕方から夜にかけて学生利用の対応とあるが、車の通行量が非常に多いところで、西山公園、道の駅との関係性から言っても道路を1本挟んでいるため、安全の担保をどう図っていくのか。

委員長) 道の駅の物産販売機能をどのように考えていくのか、そことの連携をどう考えていくのか。

時間軸利用による子ども、学生、利用者全般の安全をどう確保していくのか。この計画の中にどう反映させていくのかというところであるが、コンサルタントから現時点で考えていることがあれば教えていただきたい。

コンサルタント) 物産機能の道の駅との連携に関して、道の駅の物産機能を見直すということは考えていない。鯖江の魅力としての物産を学んだり、いろいろな機会を提供しようというときに、さまざまなアイデア商品や、これまで提供していなかったものもイベント的に取り上げて体験する場を作るといったイベント的な利用の仕方はある。道の駅の中だけでスペースが足りない場合、嚮陽会館と連携して、学んだり、一部新しい商品を販売したり、道の駅のお弁当を嚮陽会館で食べられるなど、連携した取り組みができれば道の駅の集客促進、さらには新しい嚮陽会館の利用者増につながっていく。そういった利用を含めて、固定的な概念にとらわれず、利用者をどう広げていくのかという観点に立って、いろいろなイベントの可能性を広げていってはどうかということまで上げてさせていただいている。

2点目の子どもを中心とした安全確保の部分について、災害という点から離れば、子どもに限らず、ユニバーサルデザイン、バリアフリーといった安全対策は施設整備を考えていく上で今後対策していかなければいけないと考えている。子ども利用を考

える際も、小さい子どもが遊ぶところに大きな大人が駆け回って転んだり怪我したりすることがないようにゾーンを分けるなど運用の配慮はしていきたい。

災害時の機能についても指定緊急避難場所という形で位置づけられている。周辺の方々の災害時の緊急避難場所となるので、限られた周辺地域の方だけでなく、幅広い市民の方の利用を想定した嚮陽会館という観点からは、嚮陽会館を利用されているときに災害が起きた場合、安全が確保できるような避難場所としての役割も考えていくべきだと思う。そこに対して対応できるような空間を確保することを今後の計画においては大切にしていきたいと考えている。

委員) 物産の販売という点では今の施設の中での対応には限界があると思う。使えそうな空間でイベント的に子どもが体験する場所、物を作る場所というのはいい考え方だと思う。イベントだけでなく、マンネリ化した感じの道の駅の利用の仕方だけでなく、物を作る、体験できる場所が常に開かれていると集客につながると思っている。そういうものが中に入ってもらえるとよい。災害のときの対処方法があると思うが、日ごろ安心して、子どもだけで行っても大丈夫というもののをどのように作るか。市も考えなければ駄目だと思う。同時に警察などとの関係性も必要である。安心して利用できる意識が持てるような全体の構想を作っていただきたい。

委員長) 道の駅の物産販売にしてみれば、確かにイベントの利用というのが嚮陽会館の中で想定できる。一方で、道の駅自体にも問題があるはずである。道の駅としてどうするのかというのは考えていけないといけない部分だと思う。特に安全のところはハード的な問題も一部あるものの、どちらかというソフト的な運用の問題だと思う。庁内でも運用として子どもたちだけでも安全が守られる仕組みを研究していただきたい。

2) 導入機能の方針について

委員長) 今まではこういった方向で施設を整備していくのかという話だったが、その方向に沿ってどんな機能を施設の中に入れていくのかという非常に具体的な話である。これが実は施設整備においては最も重要なページになる。あとは施設の中でこれをどう当てはめていくのかという配置論になる。どんな機能が必要かという説明をいただいた。お気づきになったところ、ご意見を伺い、次に進みたい。

委員) 避難所機能のところ、整備に向けた課題が「地域防災計画や所管課との調整」というのは課題となるようなものなのか。多目的ホールのステージの間仕切り等の改善と、避難所になったときの多目的ホール、ギャラリーの災害時の利用というところに関連してどのような間仕切りとしていいのか。災害時の間仕切りの仕方等の考え方はあるのか。

コンサルタント) 建物に対しての防災機能については耐震化、災害が起きても崩れないような形に改修していく必要がある。新しく間仕切りを用いることで補強するというよりは、間仕切りを使わない場合もあるので、既存の建物の柱や壁を基本にして防災対応できるかと

うかという基本的な考え方である。間仕切りを使わないと防災上耐えられないという形ではなく、利用しやすい形にするために間仕切りを活用しようという考え方である。防災上問題のない改修をどうするかということについては次回具体的にご提案したい。

委員) 細かく言うと、能登の地震があって、避難されている方はたくさんいらっしゃるが、そういったときのプライバシーも考えた間仕切りと考えていただけるのか、耐震を含めて、何かお考えはあるのか。

委員長) 今のお話は災害時の間仕切りというよりも、施設の平常的な利用としての壁のありなし、壁を作れば小さくしか使えないし、壁がなければ大きく使える、そういう考え方である。橋本さんのおっしゃったことは大事ではあるが、防災には個人のプライバシーを守るやり方というのがあるため、セパレートされているよりも広く施設を利用できたほうがよいという面もあると思う。何か事例があれば返答いただきたい。

コンサルタント) 今すぐに事例は持っていないが、一般的に間仕切りを増やしていくと人が通るスペースを含めて一定の空間について収納力が落ちてくる。間仕切りを常設で増やさずに、避難空間として確保できるような場所づくりに留意したい。広い空間にどういう避難の場を作るかというときに、段ボールでの仕切りも含めて、運用の中でうまくプライバシーも守り、安心して避難できるという状況を考えたい。次回具体的な施設整備の最終案をご提示するときに、災害時の利用のイメージも含めてご提示させていただきたい。

委員) 地域防災計画の課題というのは、何をもちょう課題なのか教えていただきたい。

コンサルタント) 重要な課題があるというよりは、その役割を果たすことが必要ということである。具体的な今後の整備をしていくときに一番課題になってくるのは、例えば屋外に置いてある防災用資材倉庫の規模など、具体的に施設整備に反映しなければいけないような課題があるのかどうか。地域防災計画は資料編も含めて読んだが、これが現時点で大きな問題であるということで改善を位置づけられているようなところはないので、現時点では大きな課題はないと思う。最終のプランを考えるときに大きく問題がないのかどうかということについては所管課にも見ていただいて確認した上で最終案としてまとめていきたい。

委員長) 間仕切りを入れる・入れないの話は運用面の工夫が必要になるという話である。広ければ一見よさそうに見えるが、ガラガラ感が出てしまう。運用をいかにするかによって、この施設は利用頻度が大きいとか数字的に判断されていくわけである。広く取るというのは今後必要な考え方であるし、子どもを中心としながら多世代の方々々が施設を利用すると考えていこうとすれば、間仕切りで区切っていくとそれぞれの世代がバラバラになっていくということである。一体的

にという考え方でいけば、パーティションのない大きい空間をどう運用面で充実させていくかというところは工夫が必要になってくると思う。

運用面は非常に大事である。これについては次回資料が出てくるので、それを見ながら皆さんと打ち合わせしたい。

委員) ③の市民活動について、現状のNPOセンターをごらんいただいていると思うが、現在多様な市民活動団体の事務所機能を持っている。今回複合交流施設としてそこを活用していく場合にも、今の面積が必要かどうかは検討が必要であるが、事務所機能は必要だと考えている。整備に向けた課題の中に市民活動団体事務所機能の維持と必要スペースの検討をつけ加えていただきたい。要望である。

委員長) これは当然の話だと思う。検討の中に入れていただくようお願いする。専門的に難しい話になっていると思うので、次の説明の絵を見ながら具体的なイメージを膨らませたい。

3) ゾーニングについて

委員長) 案①、案②はハローワークとNPOセンターの位置が入れ替わっている。全体としてどのように思われるかお伺いしたい。

委員) いい感じだと思った。6ページ、子どもの遊び場で出し入れされるものがあるということであったが、どなたが片付けたり出したりするのか。ここで働く方が出すのか、利用する人が出すのかで変わってくるのではないかと。

委員長) 運用面の話であるが、今想定されていることで、誰が遊具を出し入れするのか。

事務局) どういう形で運用していくかは決まっていない。遊具、設備の出し入れについては運用をお願いするところにしていただく形になる。昼間の時間帯に親子連れが来たときに自由に出し入れできるものもあると思う。そういうものは個人で出して片づけるパターンもあると思う。臨機応変な運用は遊具の大きさによって変わってくるのではないかと。具体的にどなたか決まれば管理については調整していきたい。

委員長) 今の話は大事なところである。いいイメージは作るのだが、結局誰がやるのか。全部がそこに引っかかってくる。誰がやるのかということまでこの会議で行けるかというところまで難しいと思っているが、誰がやるのかということを考えていく下敷きは作れる。運用体制づくりまではしっかり面倒を見られたらよいと思っている。次回その話が出るので、そのときにまたご意見をいただきたい。

委員) イベントを1年通してやっていたが、軒下サロンの使用方法は難しい。夏は暑い。何も仕切り

のないところで、暑いところでサロンを利用しようといっても無理である。冬の時期は寒くて利用できないとなると、数少ない利用の仕方しかない。また密集する。環境設定が必要である。7月もキッチンカーを呼んだりしているが、暑くて駄目である。先日のイベントも寒いので外のプロムナードは使わなかった。写真を見るとよいが、年中いい気候で使いやすいということはない。例えば仕切りは難しいかもしれないが、使い方は考えなければいけない。

委員長) すごく大事な視点である。これはどこで決めるかというのはいろいろあると思うが、この施設の利用頻度を年間365日で考えたときに何%の利用率を設定するかというのは大事な視点だと思う。お金をかけて施設を改修するわけであるから、かけたお金に対して費用対効果を見るときに一番計算しやすいのは利用率である。屋内の場合は計算しやすいが、屋外は下手な利用率の設定をしてしまうと首を絞めてしまうことになる。適切な時期、利用方法がある程度設定しておく必要があるのではないか。ハードというか、工夫をすることで利用期間を延ばすこともあり得るだろう。その辺も視野に入れながらプロムナードについては考えていくほうがよいかもしれない。コンサルタントからコメントいただきたい。

コンサルタント) 確かに大きな課題であると考えている。プロムナードを大きく施設投資をして改善していくと全体としてコスト的に厳しいと思っている。いかに運用面で工夫していくのかというところでアイデアをもっと絞りたい。
特に総合的な展開方法としては、イメージとして今後20年姿が変わらないというハード整備を無理して作るよりは、基本的な使い方ができるような形でコンパクトに整備しておいて、そこでどういう使い方ができるかというソフト面については新しいイベントの取り組み、あるいはこれまで関わっていなかった方の参画、特に学生主体のイベントや、子どもが中心になって新しいイベントを考えたりということも含めて、新しい取り組みを社会実験的に行いながら、これはいい、参加した人もこれはもっとやろうとなるような形でPRが進んでいけば、多少暑くても利用しやすい取り組みにつながっていくし、ご意見を取り入れていく中で大きなコストがかからない取り組みができるかもしれない。成長していくような施設づくりができればよいと思う。そこを視野に今後検討していきたい。

委員長) この委員会としては運用面をどこまで深掘りするのかということであるが、やられる方がおられるので、やられる方に対して言えることがあるとすれば、こういうことを想定しているというところまでは言ってもよいと思う。無責任なことは言えない。稼働率80%でお願いしますと言うとずっこける。そうではなく、利用できる時期をこちらで想定しながら、こういう利用を検討いただきたいと。新たな取り組みを社会実験的にやってもらうことは大事なことだし、前向きなことである。そういうことを施設を運用する方に提言できるようになるとよい。

委員) ホールの横を倉庫にするというのは決まっているのかなと思うが、展示の場合、華道展とかお茶席を今までやっていた。水場がないと困る。ホールの近くに水場を設けていただきたい。

ホールの展示について、5ページの左上の金沢市の市民芸術村を見ると、上のライトは普通の上から照らしているライトだと思う。展示用のライトも考えたライトの設置をお願いしたい。イベントもできて、絵画の展示にはライトを当てられるように考えていただけるとありがたい。

委員が言われたが、NPO センターに入居している団体の場所はどこになるのか。今 NPO センターに事務所をお借りしている団体はどうなるのか。スペースの問題である。

委員長) 水場や照明などの基本インフラはきちんとやろう。お金がないという問題ではなく、多目的で利用するということであるので、いろいろなことを想定して、基本のインフラはきちんとやっていきたい。委員から、案①、案②の1階と2階の案を見ての感想をいただきたい。

委員) 案①、案②について、市民役所検討会の中でも嚮陽会館を複合交流施設としたときにどんな配置や設備が必要か考えている。ざっくり言うとほぼ似たような構成になっている。NPO センターに入居をされている団体は十数団体あるが、その団体数でいいのかどうかという議論も必要であるし、また既存の面積についても検討の余地はあると思う。固有のスペースは必要な部分があるので、2階に配置いただけるとありがたい。

委員長) 2階のほうがよいのか。

委員) 2階のほうがありがたい。私案だが、複合交流施設を指定管理で外注したときに、どのような運営形態がいいのか。NPO センターと嚮陽企画とがジョイントベンチャーを組んで1つの企業体として受けるのがいいのか、どちらか1つが核になって受けるのがいいのか、いろいろな形態があると思う。一緒に入っていこうとしたときには、全体の事務所的には1階がよい。各団体は機材をたくさん持っている。既存の施設の中では収まり切らないと思うので、西側のほうにプレハブでもいいので、機材を収納できる倉庫を建てていただけるとありがたい。テントなど、各団体が持っている大きめの機材、外のイベントで使うものが結構ある。多目的ホールはいろいろな利用方法が考えられる。既存のイベントでも大きめの機材を正面玄関から入れるのに非常に不便なところがある。外側から直接入れられるルートや、この図面の上のほうから直接入れられるなど、そのような工夫をしていただけると、発災時の対応にも利用可能だと思う。ご検討いただきたい。

委員長) NPO センターの位置については1階でも2階でもという感じか。

委員) NPO センターの事務所は、できれば1階のほうがありがたい。

委員長) これは非常に難しいと思っている。子どもたちが1階にいることを想定したときに、市民活動をされているNPO センターが近くにあったほうがいいのか、ハローワークがあったほうがいいのか考えると、どちらかというとなPO センターだろうと思う。ハローワークに2階に行ってもらい、1階はNPOの方々がおられればバランスがよくなる。家の台所の横にすぐトイレ

の扉があるとちょっと嫌というように、相性のいいものがある。今回、コンサルタントが計画を作ってくれているのは、配置論的に言うと相性がいいものを確かに並べられているが、問題は運用面。委員もスペースなどわからないところがあるので、これは進めながら決着をつけていければよい。

委員) 1つの団体についてはパソコンと最低限のもの。あとのものは他のところにデータ化していただくということを念頭に置いて考えていくということは進めていかなければならないなど思っている。

委員長) 資材、機材等をどのようにストックするのか、その場所はあるのか。想定されることがあればお話しいただきたい。

コンサルタント) 現時点でのイメージ案の中には、各団体が保有されている備品、資機材、事務所のスペースの中に収まりきらない外部のボリュームについてどれくらいあって、それをどこに入れるのかということについては未整理の段階である。今後調整していく必要があると考えている。

課題として、この施設そのものが公園の施設になるので、公園の空間の中にある施設と考えて、公園の維持管理、あるいは嚮陽会館の多目的、多数の方の交流や会議、イベントに必要な機能ということであれば比較的シナリオを作りやすいが、一定の事務所などが公園の中に入れるべき機能として認められるかどうかについては課題が残ると思う。使い方も含めて一般市民全般が使うロッカーや資材倉庫という形で組み立てると嚮陽会館の運営に必要ということになるが、一部の限定的な利用となったときに認められるか。どのぐらいのスペースが許容されるかは今後の調整課題である。そこも視野に極力反映できるようなアイデアを含めて考えていきたい。

委員長) これは事務局と一緒に調整をよろしく願います。

委員) 5ページ、授乳室、トイレとあるが、授乳室は女性の方が入られる。おむつ替えは男性もされるので、授乳室とおむつ替えは同じ場所ではなく、区切りがあるようにできるのか。

委員長) どういう配慮が可能か。

コンサルタント) 授乳スペースとおむつ交換スペースを設ける。小スペースであれば、鍵をつけて、授乳室として使うとき、おむつ替えとして使うときという利用が考えられる。今後施設の中に配置していく中で、スペースが取れそうであれば、おむつ替えスペースと授乳室スペースを分けて配置していきたい。

委員長) 意外と使ってみたら不便ということもある。注意が必要かもしれない。検討をお願いします。

委員) 費用対効果の話があったが、基本的にお金がかかるのでここはやめようとか、こんなものを作っても利用価値がないという仕分けはしていただきたい。同時に、必要なものについては費用対効果だけで判断していただくと困る。これは何を目的としていくかということである。市民の皆さんが嚮陽会館に行けば何かができるとか、目的をはっきりしておかなければいけない。機能配置のところでここは欲しいとかいろいろあると思うが、皆さんが議論していく上で、これをすることによってこれができないというのではなく、市民が楽しめるとか遊べるという形に作り上げていただくのが基本だと思う。ここを外したところで要望だけ取り入れてもいけない。最終的にどういうところを目的にしているかというのはプレゼンをやる時にされているはずである。そのところはきちんと守りながら、確かに費用対効果も必要であるが、今後作られるときにきちんとしていただきたい。

委員長) 一番大事な部分、基本のお話であった。今回会議を開かせてもらっているが、その前に事務局とコンサルタントと私で2回ぐらい打ち合わせをしている。橋本さんがおっしゃることはごもっとも部分なので、気をつけながらそこを外さないように点検していきたい。

総務部長) 2階の市民活動の場の中に、現行のNPOセンターにあるボックス化された専用スペースをどうしていくのかについては今後の課題だと十分認識している。今後基本計画の中でどのようにできるかということもあるが、広くご利用いただける交流施設と考えているので、専用スペースをどのように確保していくのかは全体の中で勘案すべきところだと思う。慎重にご意見を賜りながら進めていきたい。ボックスの部分は構造ではなく、中造作で可能になってくる部分もあると思う。中造作をどういうスペースの中に確保していくのかということも課題が多いと思っている。ご意見を賜りながら計画の中に取り込みたい。

委員) 子育てのイベントをする際に、靴を脱ぐとか、靴を履く。この間のイベントは小さいお子さんがハイハイしたりするので、靴がないところにじゅうたんを敷いた。子どもの遊び場の床面はどのようになっているのか。小さいお子さんが来た場合にじゅうたんをわざわざ敷かないといけないのか。好きなおもちゃを出したときに、どこに出して、靴を履いたまま遊ぶのか。床の状況を知りたい。

委員長) 子どもの遊び場や創作ギャラリーも一体なので、床レベルは段差なくフラットだと思うが、土足なのか裸足なのか。

コンサルタント) 皆さんが利用しやすいという面で靴を履いて利用することを考えている。確かに乳幼児は靴を脱いだり、ハイハイしたり、姿勢が低い中での活動が多くなるが、そのときは備品でマットを考えている。

委員) 誰が出すのか。1回1回片づけるのか。うちの施設は土足ではないので、設置したままになっている。土足の場合、この間のイベントではじゅうたんの利用がすごくて、たくさん出した。

靴袋を皆さんに配布した。設置はきちんとしたほうがよい。

お母さんの中には床暖が効いているほうがいいのか、お金の面もあるが、そういうイメージでこの広場に期待している方がいる。

ギャラリー自体が冬は寒いという嚮陽会館で、今回1月や3月のイベントでここは使わないようにしている。冷暖房の設備も考えていただきたい。

委員長) 今の話は軽く扱うべきではない。利用満足度はそういうところに出てくる。工夫しなければいけない。常設化してしまうとほかの用途に使えなくなってしまう。広く使おうと思ったときに段差はつけたくない。しかし、誰が出すのか、どういったものを出すのかということもイメージしながら、どう収納するのか考えていかなければいけない。

ハピリンの能楽堂は引っ張ったら観覧席が出てくる。あれは収納を想定している。あそこも空間を分割するときどのよう分割していくか非常に悩んで、結局可動間仕切りで分割していくという方法を選んだが、これはしっかり考えておかないと使いづらい、寒いになってしまう。実際に進んでいくときに詰めた話をしていかなければいけないと改めて思った。なかなか言われてみないと気づかないものである。確かに冷たい。床暖はあるとよいが、ものすごくお金がかかる。

委員) 子どもの遊び場から軒下サロンに出られるが、軒下サロンは外なので、駐車場に飛び出すとか、安全面は大丈夫なのか。

委員長) 子どもは飛び出すものである。まだそこまでは検討していないのか。これからか。

コンサルタント) そこまではまだ検討していない。子どもへの安全面と関連すると思うので、その辺を踏まえながらどういう施設であるとか、運営上安全を確保するための工夫、運営体制の中での工夫など、いろいろ宿題をいただいたので検討して次回お諮りしたい。

委員長) 次回想定されたものが出てくるので、それを見ていただいて、まだこういうこともあるということをお教えいただければありがたい。

委員) 軒下サロンについて、現状タイル張りで使いづらい。夏は暑い、冬は寒いということで、防災の拠点として避難所になった場合、動物、ペットを連れている場合に、軒下サロンのところを囲ってしまうと床面積の部分で問題があるかもしれないが、こういうときは壁を作れるような形にして、ペット連れの方はそちらに避難できるとか、そういうところも考えれば、避難でなくても、夏場の暑いとき、雨風がきついときは軒下では遊べないが、囲めば雨風が入ってこないで遊べるのではないかと。下の材質は人工芝など考えなければいけないが、もう少し考えられることがあるのではないかと。

委員長) 今のは災害時に限定しての話であったが、プロムナードの使い方の多目的化というか、ある程

度想定しながら平時と非常時でうまく使い分けることができるということも検討したほうがよいのではないかというアドバイスである。非常に大事な話だと思うので、検討の中に入れておきたい。

委員) いろいろな意見を聞いていると、子どもさんが多いので、外で遊ぶとか、子どもが飛び出すなど意見が出ているが、皆さん子どもさんに対して非常に厳しい。NPO など何がどれだけあるか全然わからないで設計しているのではないかと。職員が何人いて、こういう面積が要るとか、そういうことをはっきり設計者に言わないと。よく考えていただいて、いろいろな打ち合わせをしてもらいたい。

鯖江の公民館も資材がたくさんあったので倉庫を建てたが、どこも資材は増えてきている。公園ということで、似たようないいものをどこかに建てればよいと思う。公民館でも資材がだんだん増えてきて、何とかしてくれということが出ている。それも頭に入れてやっていただきたい。

委員長) 今後床の大きさや位置はほぼ決まってくるが、そういったところは事務局とコンサルタントが一体となって、関連する方々と共同して早めに決定してほしい。

西山公園の隣にあり、その一帯の中の都市公園の一部であるから、環境面をどう考えていくかという点もきちんと押さえたいところである。恐らくそうなるのだろうが、文言としてきちんと入ってくるというだけでも違う。今までやっている、やろうとしている計画の中でも、材料の選択や植樹の配置、種類、密度は環境面から評価できるかもしれない。環境的なアセスメントとは言わないが、そういった視点もきちんと入れながらやっていくというのは次世代的だと思う。こういった部分も配慮しながら進めていきたい。

委員) イメージや方針は指定していただいて、現時点ではコンサルタントと行政側の方針ということで、ここに挙げられたことはある程度一致して、この範囲なら可能だという範疇だと理解すればよいのか。予算がないからイメージが壊れるというのではいろいろなことが組み立てていけない。ある程度担保しながら、こういう施設にしたいという目的を共有しながら皆さんの意見を詰め込んでいく。現時点で今日はこういうことだけはできるという担保をいただいた中で次のステップに行かなければいけないのではないかと。

イメージは利用者、運営側が作っていくものであって、多様性の中で変化してもいいと思う。それに対応できるというのはいい意見だと思う。建物を作ったら融通が利かないのでは都合が悪い。今後工夫をしていただけると面白い。

委員長) 今日、案①、案②と示されている。NPO センターとハローワークの位置については次回までに整理して、素案ということでお示しさせていただきたい。

箕輪さんは、絵は描くが、実際にやってみるとお金がなくてできなかったということをご心配されていると思う。今回の計画はある程度予算的な規模感を念頭に置きながらの計画だと聞いている。そういう意味では、その辺の心配は今のところはないと思っている。もうちょっと行

けるのであれば全部ガラス張りにしてとか、全部床暖にしてとか、そういう話もひょっとしたらコンサルタント側から出てきたかもしれないが、今現実的なラインに乗ってきていると評価できる。

まだまだゾーニングレベルであるので、実際にそれをどう具体的な絵として落とし込んでいくかという作業もある。また時期を見て皆さんと共有できたらいいと思っている。

次回は素案の提出ということでよいか。今日お話を聞いていると、ハード面もちろんだが、ソフトの話が非常に多かったと思う。皆さんはハードのイメージは大体ついているのだろうと思う。誰がやるのか、どのように運用していくのかというところに意識が向いているという印象を受けている。

運営体制について、一般的には表で示されたりするのだが、よりリアルなイメージが具体的になるような絵も添えていただいて、利用のイメージが湧くような資料もご用意いただくと私たちも判断しやすくなってくると思う。

委員) 私は難しい話はわからないが、素晴らしいと思う。近場で、エンゼルランドみたいな、みんながというところがあるといいと思っている。

委員長) これはまだまだである。空間に丸を書いているだけである。どうしていくかというのはこれからである。エンゼルランド以上のものをお願いしたいと委員からオーダーが出た。頑張りたい。今日は貴重なご意見を頂戴した。次回のご参加をお願いする。これで議題を終了したい。

その他

事務局) 次回の予定は2月中旬以降となる。日程が決まればご連絡する。

以上